

3

ムギのヒドリガモ対策について

佐城農業改良普及センター 吉田 憂美

佐賀県の鳥類による農作物被害額は平成24年度で6120万円となっており、なんらかの対策が必要とされた。このため佐城農業改良普及センターでは、ムギのヒドリガモ対策について検討し、3つの対策の試験とヒドリガモによる大麦食害の実証試験を行った。

1 吹き流しを利用した対策

吹き流しを利用した対策では、2 mの支柱に巾1m長さ3 mの黒色マルチシートを吊るし、10a当たり5本設置した。吹き流しを設置した後も、大麦が食べられる被害が発生したが、これは吹き流しを水路から離れた場所に設置していたためと考えられる。その後、水路沿いに吹き流しを移動すると、大きな食害は見られなくなった。

吹き流し設置



2 梱包紐利用による対策

圃場の周りに梱包紐を張ることで、風に吹かれた紐が音を出し、これによってカモを遠ざけることができるのではないかと考えた。

試験を行った結果、この圃場でも大麦の食害が確認された。この結果について次のような原因が推測された。

- 風がなければ音が出ないため、このときに食べた
- 梱包紐が出す音に、もともと防除効果がない
- 圃場の広さに対して、梱包紐の設置数が足りなかった
- 梱包紐の設置場所が悪い



③ テグス利用による対策

水路沿いの圃場にテグスを張り、水路からのカモの侵入を防ぐ対策の検証をした。

地上から10cm程度の高さに1本のテグスを張ったが、やはりこの圃場でも食害が出てしまった。

カモは水路から歩いて圃場に侵入するだけでなく、飛来し圃場に侵入しているためと考えられた。



④ 結果

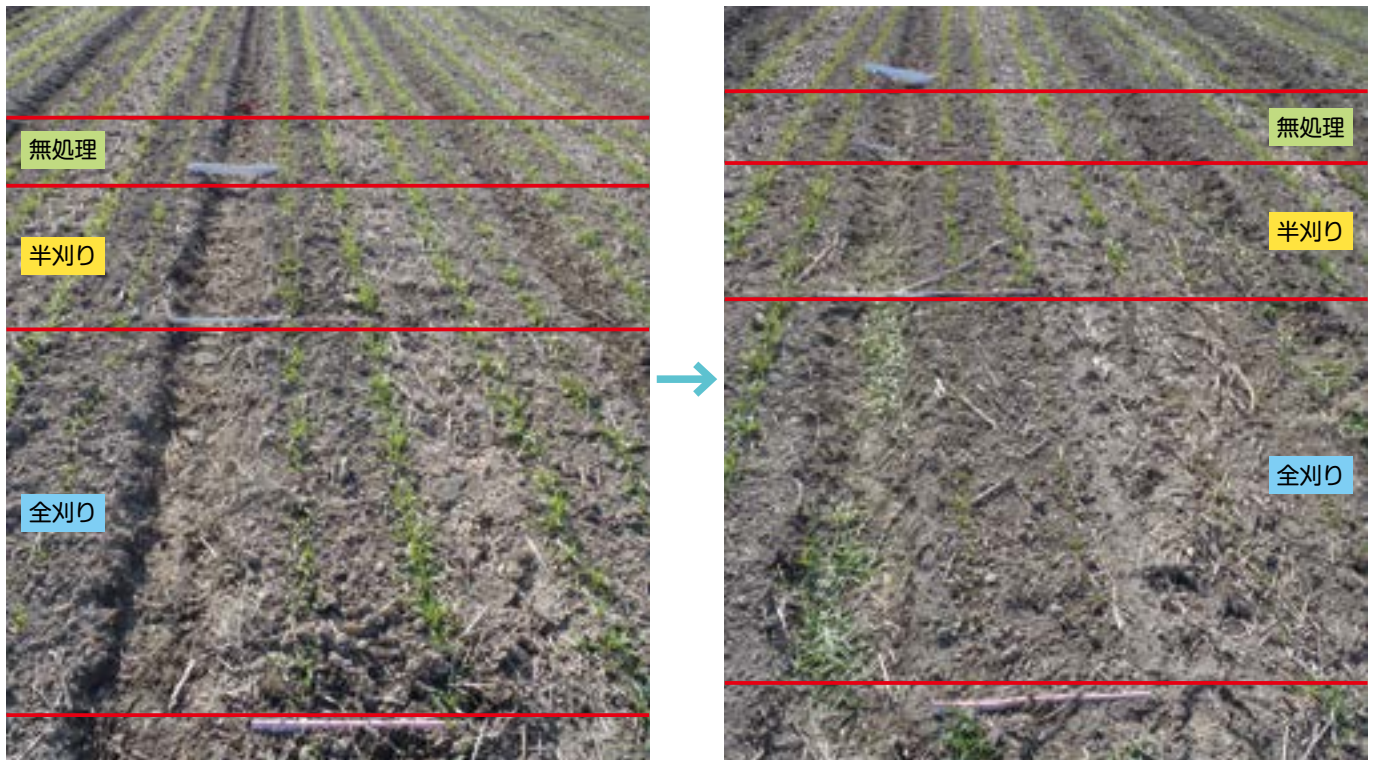
上記3つの対策のうち、もっとも効果的だったのは吹き流しによる対策であった。吹き流しを使用する場合には、圃場の水路に近い部分を中心に設置すると効果的である。

5 大麦食害の実証実験

カモによるオオムギへの食害がその後の収量に対してどのような影響を及ぼすのかを調べるため、オオムギの葉をハサミで切り、その後の生育を観察した。

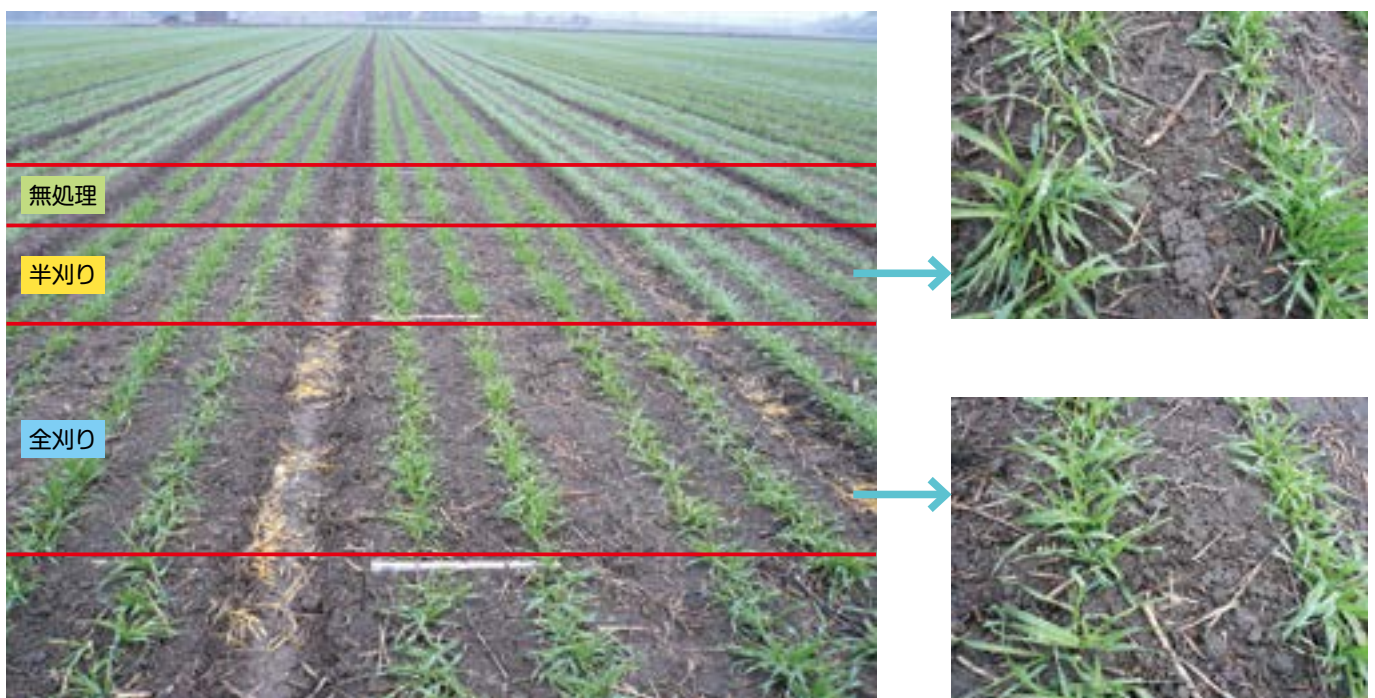
試験区を3つのグループに分け、時期別に1つはオオムギの若葉の半分ほどを切り（半刈り）、もう1つは地上部約2cmを残して切る（全刈り）、最後のグループは無処理とする。この結果以下のことが分かった。

剪葉試験



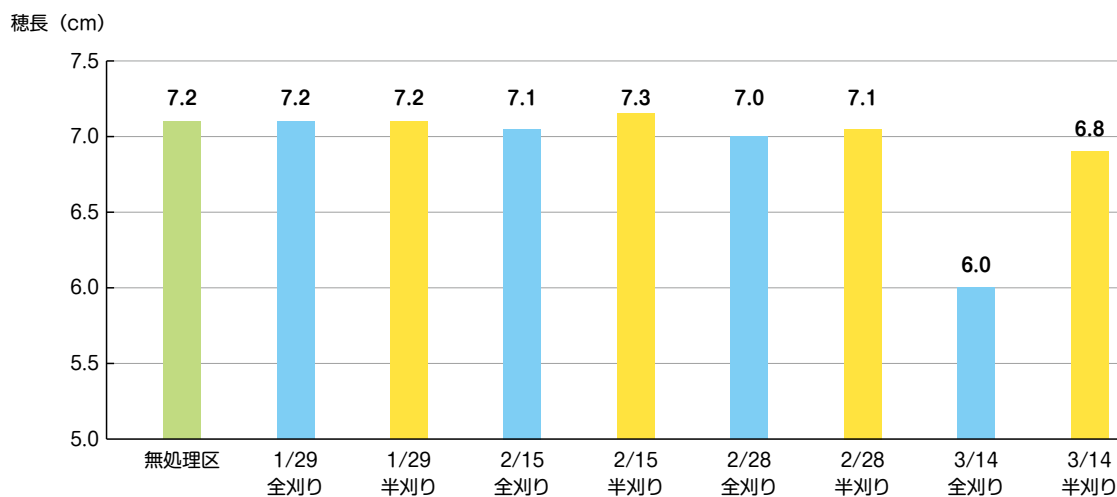
剪葉処理前

剪葉処理後

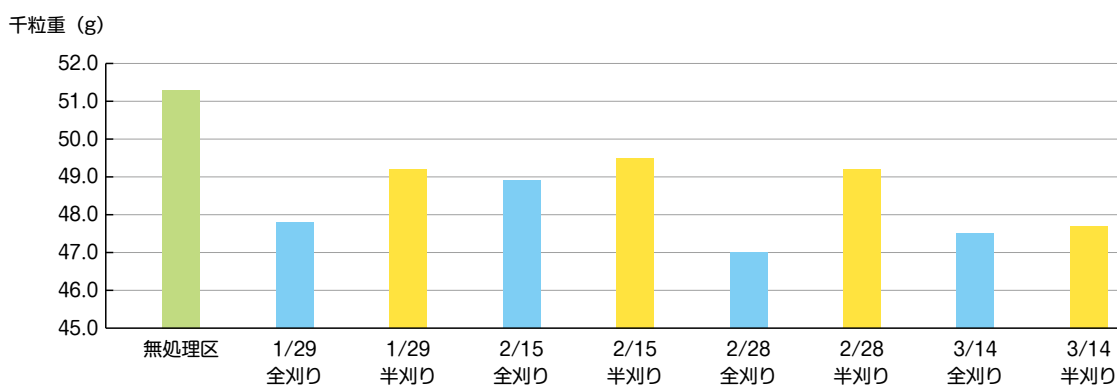


2週間後

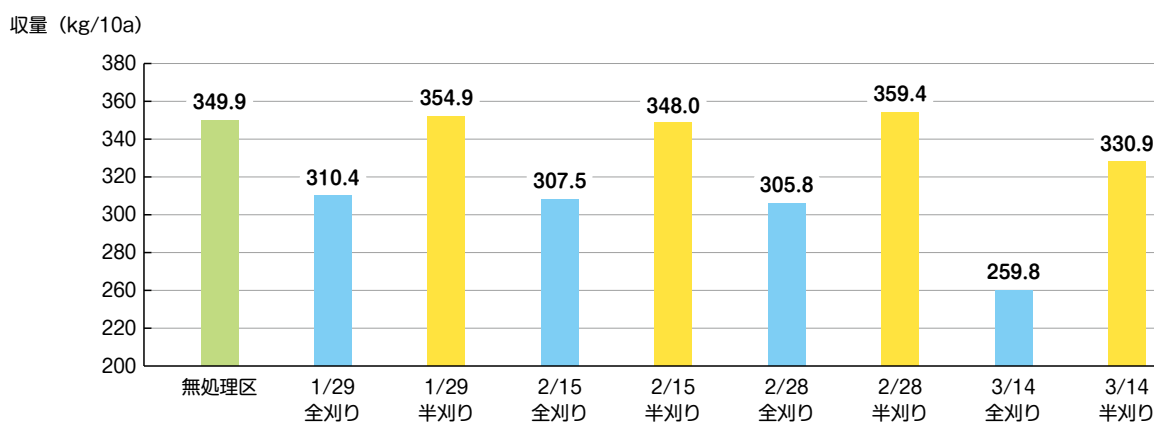
穂長



千粒重



収量



2月末までは、葉の半分程度の食害であれば、収量への影響は殆ど無い。しかし地際近くまで食害された場合は1割程度減収する。

3月中旬に食害を受けると、たとえ葉の半分程度の食害でも減収する。また、この時期に地際近くまで食害されると、大きく減収すると推測された。